

平成11年4月30日
原子力安全対策課
(11-16)
<14時30分記者発表>

美浜発電所2号機の原子炉手動停止について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

美浜発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格出力50.0万kW）は、定格出力運転中のところ、4月29日、復水器内で海水の漏えいが発生していると判断されたことから、同日14時から出力降下を開始し、同日15時45分に電気出力65%として、復水器内部の点検・補修を実施することとした。

[平成11年4月29日11時30分 記者発表済]

電気出力65%で運転中のところ、本日早朝、格納容器内にあるサンプ水位の上昇率が監視強化基準値を上回っているのが確認された。このため、関連する主要パラメータの監視強化を行うとともに、格納容器内に設置されている監視テレビカメラにより点検を行っていたところ、本日11時頃、Bループ1次冷却材ポンプ入口配管の余剰抽出水系統取出配管部付近の保温材からのわずかな水漏れが確認された。

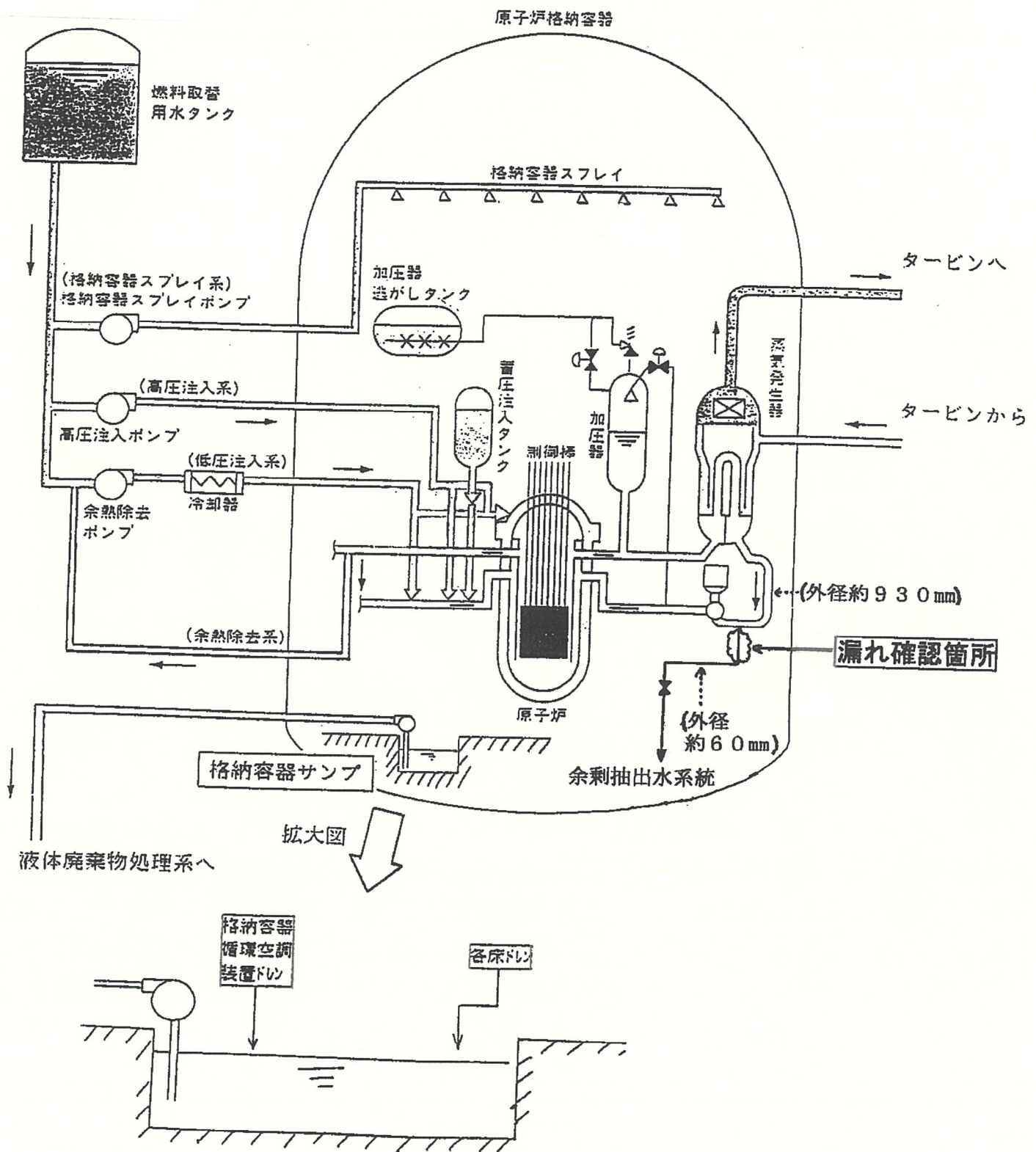
今後、漏えい個所の特定および原因調査を実施するため、本日13時30分より出力降下を開始し、19時頃に発電を停止する予定である。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

(通商産業省による I N E S の暫定評価尺度)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

原子炉格納容器内概要図



(参考) 格納容器サンプ：格納容器下部に設けられている水溜めであり、格納容器内の湿分が凝縮した水が溜まるようになっている。また仮に、機器・配管等からの漏えいがあった場合も、このサンプに流入し、溜まるようになっている。

余剰抽出水系統：化学体積制御系統の一部であり、通常運転中には使用していない系統。通常使用している充てん・抽出系統の故障時に1次冷却材系統の保有水を一定に保つため、予備として設置しているものである。

関西電力（株）美浜発電所 2 号機の手動停止について

平成 1 1 年 4 月 3 0 日

資源エネルギー庁

関西電力(株)美浜発電所 2 号機（加圧水型、定格出力 5 0 万キロワット）は、復水器の点検・補修のため出力約 3 3 万キロワットで運転中のところ、格納容器サンプに流入するドレン流量に増加が認められたことから、原子炉格納容器内の点検を行った結果、本日午前 1 1 時頃、1 次冷却系 B ループの余剰抽出水系統配管（余剰水の回収や水質調整のため 1 次冷却水を抽出する配管）の取出付近にわずかな水漏れが確認された。

このため、詳細点検を行うこととし、本日午後 1 時 3 0 分から出力降下を開始し、午後 7 時 3 0 分頃に原子炉を手動停止する予定である。

なお、外部に対する放射能の影響はない。

（I N E S による暫定評価）

基 準 1	基 準 2	基 準 3	評価レベル
—	—	0 —	0 —

問合せ先：原子力発電運転管理室

内線 3 8 0 7 直通 3 5 0 1 - 1 7 3 9